

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	
マネジメント能力を身に付けた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成	
2 研究の概要	
<p>本研究は、札幌市立で唯一の商業高校である本校を核として、地元札幌を中心とした企業、外部教育機関、行政、地域社会が有機的に結び付くことで、人的資源、物的資源、財務的資源及び情報的資源を適切に活用する「マネジメント能力を身に付けた職業人の育成」を目標とする教育プログラムの開発を目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育成する資質・能力 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー・コミュニケーション能力 ・リーダーシップ ・会計情報提供・活用能力 ・協調性・協働性 ・企画力・創造力 ・顧客満足実現能力 ・情報処理・活用能力 ・ビジネス探究能力 ● 研究開発するプログラム <ul style="list-style-type: none"> ・「観光」分野に関する取組 ・「国際交流」分野に関する取組 ・「起業家教育」分野に関する取組 ・「MICE」分野に関する取組 ・「地域ビジネス」分野に関する取組 	
3 平成30年度実施規模	
第1学年・第2学年全生徒を対象に実施した。	
4 研究内容	
○研究計画	
第1年次	<p>触れて調べて学ぶこと『知って身に付ける』</p> <p>1年次は、『知る』を重点項目とし、1年生を対象に、地域のビジネスに直接触れることで、地元“札幌”を知るとともに、人材としての“自分”を知るための学習プログラムを、科目『ビジネス基礎』を中心に実施し、その成果を分析・検証する。</p>
第2年次	<p>体験を通し『考えて行動する』</p> <p>2年次は、『考える』を重点項目とし、新たに2年生を対象に加え、1年生で体験した本事業における学びを基に、地元“札幌”に根付く活動を考える学習プログラムを科目『マーケティング』を中心に実施し、その成果を分析・検証する。</p>
第3年次	<p>新たな価値を創り出し『使う』</p> <p>3年次は、『使う』を重点項目とし、さらに3年生を対象に加え、これまでの学習や体験により身に付けた能力やつながりを活用し、地元“札幌”に貢献する人材へと成長するためのプログラムを、科目『課題研究』・『総合実践』を中心に実施し、学習のまとめとして、生徒自身が本事業における活動による成果について発表や提案を行い、全体としての成果を分析・検証するとともに、本事業を総括的に評価する。</p>
○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）	
特記事項無し	
○平成30年度の教育課程の内容（平成30年度教育課程表を含めること）	
(1) 商業科：「ビジネス基礎」（第1学年・必修・3単位）	

- ・互いに知識と意識を共有する「協調性・協働性」の育成
 - ・新たな起業に向けて、互いのアイデアを尊重する「企画力・創造力」の育成
 - ・ビジネスに必要な「会計情報提供・活用能力」の育成
 - ・地域の産業を新たなビジネスとして捉える「ビジネス探究能力」の育成
 - ・正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成
 - ・実際に即した「ビジネスマナー」を使える能力の育成
- (2) 商業科：「情報処理」(第1学年・必修・3単位)
- ・正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成
- (3) 商業科：「マーケティング」(第2学年・必修・3単位)
- ・「顧客満足実現能力」・「情報処理・活用能力」の育成
 - ・「企画力・創造力」・「ビジネス探究能力」の育成
 - ・「協調性・協働性」・「ビジネス探究能力」・「会計情報提供・活用能力」の育成
- (4) 外国語科：「コミュニケーション英語Ⅰ」(第1学年・必修・3単位)及び「英語会話」(第1学年・必修・2単位)
- ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
 - ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
- (5) 外国語科：「コミュニケーション英語Ⅱ」(第2学年・必修・3単位)及び「異文化理解」(第2学年・選択・4単位)
- ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
- (6) 地理・歴史科「地理A」(第1学年・必修・2単位)
- ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
- (7) 学校行事
- ・活動の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成
 - ・「リーダーとなる力(リーダーシップ)」の育成

○具体的な研究事項・活動内容

- (1) 課題を見出し、未来を創造するために、現状を知りマネジメント能力の基盤を身に付ける力の育成
- (ア) 「協調性・協働性」・「企画力・創造力」・「顧客満足実現能力」・「ビジネス探究能力」の育成 【観光分野の取組・MICE分野の取組・起業家分野・地域ビジネス分野の取組】

「本物を見る、本物を知る」～ 地域の現状を知り、アイデアを起こす

【観光分野の取組】

① 実施内容

観光について大学で先進的な研究をされている講師から観光に関する講話を受け、地域インバウンドの現状や訪日外国人の観光に対する動向、本校の所在地である札幌市南区における観光に対する取組事例について学んだ。グループワークでは、事前学習や講話により取得した知識を活用し、知識と意識の共有を図り、アイデアをまとめ、発表した。

- ② 実施状況 6月下旬から7月上旬の合計10時間 科目「ビジネス基礎」で実施
【地域ビジネス分野の取組】

① 実施内容

昨年度のSPH国内研修で得た地域ビジネスに関する知識を生徒に習得させるために本校教員が講話を実施した。講話で紹介された地域振興事例などを参考に、アイデア創出技法(KJ法)によりグループワークを行い、グループごとに地域ビジネス案を作成した。

- ② 実施状況 11月上旬から11月下旬の合計8時間 科目「ビジネス基礎」で実施

【起業家分野の取組】

① 実施内容

起業に関する専門家を講師に招いた講話を行い、起業意識の向上を図った。生徒各自が起業アイデアを創出し、グループワークにより一人一人の起業アイデアをグループの中で共有し、各グループとしての起業アイデアにまとめた。

② 実施状況 12月上旬から12月下旬の合計11時間 科目「ビジネス基礎」で実施

評価	A	実施による効果	事後学習のレポートには『「協調性・協働性」が高まった。』という生徒の声が大変多く書かれていた。(生徒感想文より)
----	---	---------	--

(イ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知るⅠ」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

大学教授を講師に招き、「国際観光都市札幌のおもてなしについて」の講演を実施した。授業において、国際観光地としての札幌の現状を調査し、外国人観光客への利点をまとめ、英語によるプレゼンテーションを行う。市内大通公園にて開催されたオータムフェストに代表生徒が参加し、外国人観光客への観光案内やインタビューなどの体験を行った。

② 実施状況

9月中旬から2月下旬の28時間 科目「英語会話」で実施。イベントには代表者が参加した。

評価	A	実施による効果	イベントに参加した代表者によるレポートや講演により国際観光への関心を高められた。(生徒感想文より)
----	---	---------	---

(ウ) 取組の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成

【観光分野の取組・MICE分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

「これからの取組につなげる」～ 生徒国内及び海外研修

① 実施内容

生徒国内研修については、今後の活動の参考とするために、代表生徒が観光・MICE分野についての研修(横浜商科大学や観光庁、パシフィコ横浜等)を実施し、報告会を開催した。

生徒海外(台湾)研修については、台湾において、札幌の魅力を伝える活動や商業(観光等)事情を調査するために、研修を実施し、報告会を開催する予定である。

② 実施状況

・国内研修：8月1日～3日の2泊3日 ・海外研修：2月18日～21日の3泊4日

評価	A	実施による効果	成果を生徒全体に共有する方法については課題であるが、昨年と比較し研修の質が上がり、教員側の目的は達成された。
----	---	---------	--

(国内研修の生徒アンケート結果より)

(エ) 「会計情報・活用能力」・「情報処理・活用能力」・「ビジネスマナー」の育成

「ビジネスの基礎を身に付ける」～ ビジネスに必要な技能の習得

① 実施内容

「ビジネスに関する計算の基礎」については、実践的なビジネス計算の基礎力を身に付けるため、道内企業の有価証券報告書を用いた財務比率の計算を行った。

「情報の取捨選択をする」については、「ビジネス基礎」及び「情報処理」の授業を通して、情報の信頼性を見極め、正しく選択し、活用できる力を身に付けた。

「実際のビジネスで使ってみる」については、代表生徒が、オータムフェストに参加し、企画・運営の体験を通して実践的なビジネスマナーの必要性について理解を深めた。

- ② 実施状況 9月上旬に6時間 科目「ビジネス基礎」・「情報処理」で実施
9月30日に代表生徒がイベント参加により実施

評価	A	実施による効果	昨年度B評価であったビジネス計算の取り組み内容を改善し85%の生徒の「関心・意欲」を高めることが出来た。
----	---	---------	--

(「ビジネス基礎」学習評価より)

- (2) 未来を創造するために、前年度身に付けた知識や技術を基に、次年度実施する取組を考え、マネジメント能力に必要な様々な能力を相互に結びつける力の育成(今年度新たに2年生及び一部の1年生を対象として行う取組)

- (ア) 「顧客満足実現能力」・「情報処理・活用能力」の育成 【観光分野の取組】

「札幌の魅力を伝える観光とは」～ 観光客が求める新たな観光プランの作成

市が発行する「札幌の観光」を利用し札幌市の観光の現状を学んだ。講話では、顧客満足に対する知識や理解を深めるために、顧客満足の実現を目指す効果的なマーケティングを行っている企業の具体的な事例と観光プランの作成に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得した。グループワークにより観光プランを企画し、クラス・学年コンテストを実施した。

- ② 実施状況 6月上旬から7月上旬の合計19時間 科目「マーケティング」で実施

評価	A	実施による効果	「顧客満足を実現できる能力が高まったか」というアンケートに対して90.9%の生徒が「高まった」と回答した。
----	---	---------	---

(学習プログラム実施後アンケート結果より)

- (イ) 「企画力・創造力」・「ビジネス探究能力」の育成 【地域ビジネス分野の取組】

「地域ビジネスを体験する」～札幌における新たなビジネスの振興Ⅱ

クラスごとに、様々な分野を担当されている方を講師に招き、専門分野を題材について講話をいただく。講話の中で現状での課題を出していただき、その解決策を考えるため、アイデア創出技法を用いてクラス内でアイデア創出を行う。学習を振り返り、創出されたアイデアから、札幌の地域ビジネスとして新たに実現可能と考えることについてレポートをまとめるとともに、生徒の意識についての高まり度合いを事後アンケート調査で把握する。

- ② 実施状況 2月中旬から3月上旬の合計7時間 科目「マーケティング」で実施

評価	A	実施による効果	「地域ビジネスへの意識は高まったか」というアンケートに対して、95%の生徒が「高まった」と回答した。
----	---	---------	--

(学習プログラム実施後アンケート結果より)

- (ウ) 「協調性・協働性」・「ビジネス探究能力」・「会計情報提供・活用能力」の育成 【起業家分野の取組】

「クラウドファンディングを利用した起業挑戦」
～ ビジネスアイデアから起業へ。起業の実際を体験し知る。

起業についての専門家による講話を行い、資金調達のためのクラウドファンディングのしくみや方法、各資源のマネジメントについての基礎的・基本的な知識・技術を習得した。各自が作成したビジネスアイデアをもとに、グループごとにクラウドファンディングを行うビジネスアイデアを作成した。各グループが作成したビジネスアイデアはクラスで発表し、グループで話し合った内容や考えについて共有を図った。

② 実施状況 10月下旬から11月下旬の合計14時間 科目「マーケティング」で実施

評価	A	実施による効果	起業が魅力的との回答が47.8%から取組後60.4%に増えた。また、ビジネスが社会問題の解決に繋がることに気づいた。
----	---	---------	--

(学習プログラム実施後アンケート結果より)

(エ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知るⅡ」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

外国人観光客に対応するコミュニケーション能力を育成するために、授業においてコミュニケーションに必要な会話表現を学び、課外活動を想定したロールプレイングを実施した。講話では、外国人観光客に対するマナーを学ぶと共に、国際的なサービスやおもてなしについて基礎的・基本的な知識を習得した。見学旅行先でのフィールドワークでは、班ごとに外国人観光客に向け、写真撮影ボランティアや食レポビデオ制作をした。

② 実施状況

9月中旬から10月下旬の合計8時間 科目「異文化理解」「コミュニケーション英語Ⅱ」

評価	A	実施による効果	外国人観光客との交流に積極的な態度が身に付いたと回答した生徒が87%いた。(学習プログラム実施後アンケート結果より)
----	---	---------	--

(オ) 「コミュニケーション能力」・「企画力・創造力」・「顧客満足実現能力」の育成

【MICE分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

「地域の魅力を伝える」～海外の国・地域へ札幌の売り込み

台湾において、地元札幌の魅力を商業の視点で発掘し、札幌を宣伝する企画を考える。さらに、台湾の祭りイベント(ランタンフェスティバル)にて、その企画を実施する。

※ 学習プログラム(1)(ウ)と同時に実施する。

② 実施状況 2月18日～21日の3泊4日 代表7名により実施

評価	A	実施による効果	昨年度の反省から生徒自ら行動する教育プログラムとしたため、参加生徒の評価は軒並み高くなった。(生徒アンケートより)
----	---	---------	---

(カ) 「リーダーシップ」・「プロジェクトを管理する能力」の育成

【MICE分野・国際交流分野の取組】

「イベントを動かす」～札幌で行われるイベント運営の実際

代表生徒が札幌市で開催されたオータムフェストに参加し、企画、運営、販売の実際を体験した。取組の前後でどのくらい意識の変容があったか、アンケート調査を実施した。参加にあたっては、各クラスから来年度以降MICE分野の取組における中心となる生徒を募り、選出した。

② 実施状況 9月29日 代表生徒6名で実施

評価	A	実施による効果	イベントの実施方法やマネジメントの重要性を理解することが出来たと回答した生徒が83%いた。
----	---	---------	---

(学習プログラム実施後アンケート結果より)

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

本校が主催する「SPH成果中間発表会」を平成31年2月に実施する。また、平成31年1月に行われた北海道高等学校教育研究大会商業部会において会場内に本校のSPHの取組を紹介するブースを設け、パネルと関係資料の展示を行った。

今後も各種研究会において実施状況の報告や研究紀要への寄稿を行い研究成果の普及に努め、他校における新たな取組の検討材料となることを期待している。また、各取組の実施状況については、実施内容や反省・改善点なども含めたショートレターをその都度本校HPに公開している。報道機関への情報提供を行い、取組当日取材を受け各紙に掲載された。（北海道通信10件・北海道新聞1件）

○実施による効果とその評価（数値や客観的なデータ等も用いながら記載すること）

各学習プログラムの評価は、上記「具体的な研究事項・活動内容」に記載した。研究指定2年目における研究全般の評価として、育成を目指す資質・能力に若干のばらつきはあるが、生徒には資質・能力が徐々に養われていると考える。

平成30年12月に第1学年・第2学年全生徒にSPHの学習プログラムにより「学習意欲が向上したか」「課題を解決する力が高まったか」「新たな知識・技術を習得できたか」「将来の職業に対する意識が高まったか」という4つの項目についてアンケートを実施した。下表は各アンケート項目に対して「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合である。

	1 学年				2 学年			
	意欲	課題	知識	職業	意欲	課題	知識	職業
H29	70.6%	69.7%	71.1%	57.8%	-	-	-	-
H30	84.1%	81.4%	82.7%	78.2%	64.7%	71.9%	74.1%	57.1%

平成30年度第1学年においてはどの項目に対しても学習プログラムの高い効果が表れるアンケート結果となった。第2学年においても、第1学年より数値は劣るが、日頃からこのようなアンケートの際に厳しい評価をする傾向があるため、担当教員の目線としては、効果を評価できる結果である。課題解決力と知識技術の習得に関する項目では昨年度の第1学年次よりも数値が上昇しているが、学習意欲と職業意識に関する項目では数値が下降している。日頃授業を担当している教員の目線からは、SPHの取り組みに対する生徒のモチベーションは良く、授業で学んだことをSPHの取組で実践し、学びの深化や習得した知識や技術を活用することにより学びの楽しさに繋がっていると認識している。上昇している項目がある一方で下降している項目があるのは学習プログラムの効果に生徒自身が気づけていないこともあるのではないかと推測する。来年度も同様のアンケートを実施し、生徒の意識の変容を注意深く考察していきたい。

○実施上の問題点と今後の課題

- (1) 学習プログラムの計画・実施・評価・改善においては「何ができるようになるか」という身に付ける資質・能力を常に念頭に置き、それらを育成するという目的を達成するために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」今後も研究に努める。
- (2) 3年目を迎える来年度へ向けて、今年度の学習プログラムで育成した資質・能力を土台に学習プログラムを発展させる。また、今年度実施した、第1学年・第2学年の学習プログラムの内容を精査し、来年度各学習プログラムを継続するか、変更するかの判断をする。
- (3) 資質・能力の育成を目指し、様々な学習プログラムを計画・実施してきた。各学習プログラムの相乗効果が徐々にみられる場面が増えてきたように感じるが、まだ改善の余地はある。来年度の事業に向け、各学習プログラムがより多くの部分において綿密な連関を持ちながら本教育プログラムの目標である「マネジメント能力の育成」に繋げることができるよう、教育効果が最大化するよう工夫を図る。